

# 令和5年度の「こどもまんなか応援団」について

令和6年度（2024年度）第1回  
熊本県子ども・子育て会議：資料5

- 令和5年度は、20歳～30歳代（56名）で、子育て経験・結婚の有無等に関わらず、結婚や子育てについて率直な意見を述べる方が「こどもまんなか応援団」として参画した。
- 令和5年度は、応援団から主に以下の意見があり、今後の計画策定や施策の検討に活用予定。

## 1 県庁内部の職場環境の改善等に係る提案

- 県庁内に保育所を開設するとともに、地下診療所と連携した病児保育の実施により、職員向けの保育の受け皿を整備。
- 現行よりも柔軟な勤務シフトの選択や、家庭や業務の状況からやむを得ない場合にT E L E Tによる自宅等での時間外勤務を可能とする。
- こどもと関わる時間等の確保のため、週に一日程度在宅勤務を行うことを可能とする。
- 育休取得の負担を軽減するため、遊撃部隊として派遣できる人材（正職員でも可）を一定数確保。
- 現在、子の3歳の誕生日の前日までとなっている育児時間休暇を、小学校就学前までに拡大。
- 「ハッピーシェアウィークス」（県職員の男性育休）について、最低14日以上取得することとなっているが、将来的には、最低1か月など期間を延ばしていくことも検討すべき。（同様の意見多数あり）

## 2 各課が登録した「こどもまんなか熊本」施策への意見

- 3歳未満の保育料は、第1子から無償化すべき。本来は国が財政措置すべきことと思うが、少子化を食い止めるためには、国の動向を待たず、そこまで大胆に取り組むべきではないかと思う。（同様の意見多数あり）
- 病児・病後児保育の制度は充実しているものの、事業者が少なく利用するのが困難であるため、受け入れ事業者の拡充が必要。（同様の意見多数あり）
- 受診と関係なく妊孕性温存に関する悩みを持つ県民が無料で相談できる場所があると良い。
- TSMC工場が県内に進出することから、県内の小中学生に対して、早いうちから半導体分野を職業選択の1つとして認識してもらえれば熊本県での就職を希望する若者が増加し、結果として就職に伴う人口流出を防ぐことに繋がるのが期待される。
- 歩道を通る自転車が通学中の児童の安全を脅かす場合があるため、自転車専用道路の拡充を行ってはどうか。
- 熊本に転入した際に歩道が少なく子どもを連れての外出に苦労した経験があるので、子どもや子育て世帯等に安心安全な歩道整備を進めて頂きたい。
- 通学路見守りカメラの設置を順次県下全域に拡大することによって、子供や若者・子育て世代が安全で安心して暮らせる環境の向上に寄与し、安全の観点からの地域差の縮小を図ることができる。
- 企業の意識改革のために、県庁の幹部職員から熱のこもったこども・子育てに係るプレゼンをしてもらう。
- 各課が実施している「こどもまんなか熊本」の実現に向けた取組を一つのサイトで確認できるようにする。